

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 商学演習(1年次必修科目)における共通講義内容（ベンチマーク）を作成し、教員に徹底する。	→商学演習の共通講義内容（ベンチマーク）の作成。毎年4月の教授会での配布と確認。	B	C	B	B	
2. 各学年の履修申請単位数上限を2～4単位程度引き下げ、一方でGPA上位の学生には単位数制限を緩和する。	→履修申請単位数。内規の改正。	A	A	A	A	
3. シラバス内容と整合する授業が実施されているかを確認する。	→シラバスの遵守について教授会での確認。	C	C	B	B	
4. 全科目のシラバスにおいて評価方法を明示する。	→ネットシラバスへの評価方法の記載率。	B	B	B	B	
5. 成績評価結果を教員へ公開する。	→事務室における成績評価結果の常時閲覧実施の有無。	A	A	A	A	
6. 単位認定の適切性を定期的に確認する。	→単位認定数。定期的な単位認定の見直し内容。	A	B	A	B	
7. FD委員会主催の授業改善のための研究会を継続し、FD委員会主催研究会への参加教員を増加させるとともに、教員からの提案・議論の活性化および授業改善取組事例の共有を進める。	→FD委員会主催の研究会の開催数。FD委員会主催の研究会への参加教員数。授業改善取組事例の報告数。	A	B	B	A	

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	教授会において、共通で実施してほしい講義内容(ITスキル、プレゼンテーション、キャリア教育)について周知し、徹底している。その上で各商学演習では各教員の研究テーマにしたがった独自性と、共通内容のバランスをとるよう依頼している。
目標2	2012年度より実施の新カリキュラムより、各学年の履修申請単位数上限を2~4単位程度引き下げ、その一方でGPA上位の学生には単位数制限を緩和する施策を実施し、あわせて内規改正を実施している。現在その効果について検証・議論している。
目標3	シラバスの内容について、各授業回ごとに内容を記述し、またそれに従った内容の講義を行うよう、教授会で周知している。シラバスの内容については、FD委員会で定期的にチェックしている。
目標4	シラバスの内容について、評価方法も含め、記載漏れがないよう、全教員に教授会において周知徹底している。あわせてFD委員会にその内容を検証するよう、定期的に諮問を行っている。
目標5	成績評価結果については、事務室において成績評価結果を常時閲覧できる体制をすでに整えている。
目標6	2012年度より実施の新カリキュラムより、単位認定についてより厳しい基準を設け、すでに実施している。現在その是非について検証し、あわせて定期的に検証する体制をFD委員会で構築するよう検討している。
目標7	FD委員会の開催数を、シラバス・カリキュラムの定期的な点検・検証のために前年度より増やし、併せてFD委員会主催の教員参加の研究会を実施している。教育・研究内容についての報告をおこない、それについて議論している。そちらの報告数と参加教員数は前年並みであるが、高い参加率を実現している。
備考	特になし